

PRESS RELEASE

ペットブームの陰で、捨てられるなどして殺処分されたペットは28万頭以上(2008年度) 動物用医薬品企業、メリアル・ジャパンと日本全薬工業が共同で セーブ ペット プロジェクト ペット殺処分低減を目的とするキャンペーン「Save Pet Project」5月開始 環境省も殺処分半減を目指し、2017年までに90カ所の施設整備に着手

動物用医薬品企業である、メリアル・ジャパン株式会社(本社:東京都千代田区、社長:ミシェル・ラショセ)は、日本全薬工業株式会社(本社:福島県郡山市、社長:高野恵一)と共同で、年間28万頭以上にも上る犬や猫の殺処分(※次頁参照)の低減を目的とするキャンペーン「Save Pet Project(セーブ・ペット・プロジェクト)」を2010年5月1日(土)より開始します。

環境省が2009年度より、犬や猫の殺処分半減を目標に、新しい飼い主探しを促進するために全国90カ所の施設を整備する事業に乗り出すなど、飼い主を無くした犬や猫の殺処分問題についての社会的関心は、昨今少しずつ高まりを見せています。

本キャンペーンは、ペットブームの陰で、捨てられるなどして殺処分される犬や猫の数を減らすために、ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン[®]」製品の売り上げの一部を、保健所や動物愛護センターから動物保護団体が保護した犬や猫の医療支援のほか、迷子になった時に犬や猫を無事飼い主の元に戻すためのマイクロチップ普及支援のため、以下の団体に寄付します。

「Save Pet Project」寄付先

ー 動物保護団体

保健所や動物愛護センターなどに収容された犬や猫の引き取りや、新しい飼い主探しなどを実施する以下の7団体に寄付します。寄付金は、これらの団体に保護されることになった犬や猫のための医療支援に使われます。

NPO法人 ARK/千葉わん/Dog Shelter/NPO法人 日本動物生命尊重の会/Happy Labs/PAK(Paws Adoption かながわ)保健所の犬・猫を救う会事務局/NPO法人 保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会

※上記団体へは、殺処分低減のためのドネーション活動「ONE LOVE」プロジェクト(※環境省が活動一部を後援)を推進する、人とイヌのライフスタイルマガジン「ONE BRAND」を通して寄付を行います。

ー 社団法人 日本獣医師会

同団体による、迷子や逸走、あるいは事故に遭遇した犬や猫を無事飼い主の元に戻すための、個体識別を可能にするマイクロチップ普及活動。この活動支援のために寄付を行います。

また、問題の根源は、犬や猫を捨てる飼い主が後を絶たないことにあり、飼い主と犬や猫との健康で幸せな共生を支援するためにキャンペーンウェブサイトにおいて啓発活動を行います。また、TVCMなどを通して、多くの方々に動物福祉への関心を高めてもらうための情報発信をしていきます。

ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン[®]」製品は、動物用医薬品メーカー、メリアルが製造しています。日本においては、メリアルの日本法人、メリアル・ジャパン株式会社を輸入元として、日本全薬工業株式会社が販売しています。本製品は、動物病院のみで処方されています。 ®フロントラインはメリアルの所有登録商標

一般の方の問い合わせ先

Save Pet Project 事務局
TEL 03-5575-0523

「Save Pet Project」ウェブサイト(4月1日稼働開始)
www.s-p-p.jp

報道関係者の問い合わせ先(掲載不可)

「Save Pet Project」広報担当
(株)ブレインズ・カンパニー(荻野・石原・李)
TEL 03-3496-1091 FAX 03-3496-2216
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 2-9 カサヤビル
e-mail ogino@pjbc.co.jp

加熱するペットブームの弊害? ペットの殺処分は年間 28 万頭以上

空前のペットブームのなか、日本における犬や猫の飼育数は依然として年々上昇傾向にあります(2008年飼育頭数:犬 13,101,000 頭、猫 13,738,000 頭[※ペットフード協会調べ])。

一方、その陰で人間の都合により、保健所や動物愛護センターで引き取られた犬や猫の数は、年間 26 万頭以上。さらに捕獲された犬は年間6万頭以上と、収容された犬や猫は合計で 32 万頭以上に上ります。国、自治体や動物保護 NPO 法人により、そうしたペットの飼い主を探す活動が懸命に行われ、犬や猫の譲渡数が増え、殺処分の数は減少傾向にありますが、それでも殺処分される犬や猫の数は年間 28 万頭以上にも上ります。つまり、現状として、保健所や動物愛護センターに収容された犬や猫の約 9 割は殺処分されているのです。

犬・猫の年間殺処分数(2008年度)

	犬	猫	合計
保健所、動物愛護センターに引き取られた犬や猫(負傷動物含む)	55,543	212,069	267,612
捕獲された犬・猫	62,946	-	62,946
元の飼い主に返還された犬や猫	17,857	324	18,181
一般譲渡	16,097	8,426	24,523
殺処分数	84,264	202,228	286,492

※地球生物会議 ALIVE 調べ(<http://www.alive-net.net/>)。動物行政を所轄する 47 都道府県、17 政令指定都市、35 中核市、6 保健所設置市、合計 105 自治体を対象にした 2008 年アンケート調査

環境省、犬や猫の殺処分半減を目指して全国 90 カ所の施設整備へ

環境省は 2009 年度より、犬や猫の殺処分半減を目標に、新しい飼い主探しを促進するための施設を、都道府県や政令市に、年間約 10 カ所、2017 年までに 90 カ所整備する計画に着手しました。9 年間で殺処分の半減を目指します。新しい飼い主探しを促進するための施設整備のほか、不妊手術やマイクロチップ装着なども推進します。

ペットの殺処分ゼロに向けた、国内自治体の取り組み

こうした状況のなか、犬や猫の殺処分ゼロを目標に奮闘する自治体があります。熊本市動物愛護センターは、嫌われる行政になることも辞さず、ペットを持ち込む飼い主への翻意を促すための説得の徹底や、市民団体や獣医師会と連携することでより多くの人々を巻き込んで実施する譲渡会、ウェブサイト上での保護犬の情報公開などの取り組みにより、2002 年度に 56.38%であった処分率を 2008 年度は 12.86%にまで引き下げました。

熊本市動物愛護センター殺処分数推移

〈犬〉

年度	登録総数	捕獲・保護	不要犬 引き取り	元飼い主へ の返還	一般譲渡	実験用	死亡	処分数	処分率
2002	27,895	455	242	109	169	1	25	393	56.38%
2003	28,043	467	260	136	264	0	42	285	39.20%
2004	29,553	478	271	169	214	0	37	329	43.93%
2005	31,204	579	164	200	275	廃止	47	221	29.74%
2006	33,012	636	59	245	309		81	60	8.63%
2007	34,979	558	52	241	263		26	80	13.11%
2008	35,939	475	77	215	205		14	71	12.86%

〈猫〉

年度	取得・不要 猫引き取り	※内負傷 猫保護	一般譲渡	死亡	処分数	生存率
2003	1,106	23	95	48	963	8.60%
2004	892	42	104	39	749	11.70%
2005	722	47	51	79	592	7.10%
2006	754	81	92	150	512	12.20%
2007	560	55	178	58	324	31.80%
2008	318	71	205	43	70	64.50%
2009.12まで	240	53	207	28	3	86.30%

※熊本市動物愛護センターご提供

ペット先進国ドイツ～殺処分ゼロの国～

ドイツでは捨てられた犬、猫や、飼い主が飼えなくなった動物を絶対に殺しません。ドイツには殺処分場は存在しないのです。その代わりに新しい飼い主を探すための「ティアハイム（動物の家）」というシェルターが 500 以上あります。ここでは、譲渡できないからといって、殺処分される動物はいません。適切な飼い主が見つかるまで、何カ月でも暮らすことができます。欧州最大規模の動物保護収容施設「ティアハイム・ベルリン」=写真=では、2005 年に譲渡された犬や猫の数は合計 6,494 頭。収容された内、98%に新しい飼い主が見つかりました。この施設にかかる一日の経費約 1,100 ユーロ(約 13 万円 ※2010 年 2 月現在)に対して、自治体からの援助は僅か。ほとんどは 1 万 5 千人いる会員からの寄付によって賄われています。



ドイツには、犬を保護する様々な法律があります。犬の大きさや種類によるケージの大きさや、散歩時のリードの長さから、気温が高い時の犬の車での置き去りの禁止まで、細かく定められています。犬のオーナーに課せられる「犬税」も存在します。内容や額は自治体によって異なりますが、安易に犬を飼うことを抑止し、流行などによって特定犬種を過剰繁殖させることを防ぐために有効です。

※参考資料：地球生物会議 ALIVE ウェブサイト、dog actually ウェブサイト (<http://dogactually.nifty.com/>)

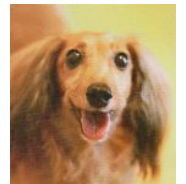
Photo from Tierschutzverein fuer Berlin

5月9日、「フロントライン Save Pet Project チャリティウォーク」開催

メリアル・ジャパン株式会社と日本全薬工業株式会社は、より多くの方に飼い主を無くした犬や猫を取り巻く現状や、そうした犬や猫を譲り受けることに興味を持っていただくため、本キャンペーン開始に先駆け、5月9日(日)、パレットタウン内パレットプラザ(東京・お台場)にて、実際に犬や猫を譲り受けた飼い主の方々とそのペット達によるチャリティウォークを開催します。当日は、ゲストに大の動物好きで知られる長谷川理恵さんをお招きして、チャリティウォークや、犬・猫を譲り受けた方に、飼い主を無くした犬・猫を育てる喜びや日々の暮らしについて語ってもらうミニトークショーのほか、動物保護団体による「ペットの譲り受け相談コーナー(仮)」などを実施します。(一般公開、入場無料)

<新しい飼い主を見つけた犬&飼い主の紹介>

- 「繁殖犬だったココ。ブリーダーの崩壊で動物保護団体に預けられる事に。長い間狭いケージに入れられていたからか、来た当初は家を一步出た途端地べたに張り付いて動けない時期もありました。今ではすっかり外を歩けるようになり、3頭の個性豊かな犬達と一緒に元気に暮らしています。」(Sさん&ココ=写真上=)
- 「保護犬は、過去につらい経験をしたにもかかわらず人間に心を開いてくれた成犬が多いです。こうした犬は素晴らしい伴侶になると思います。」(Aご夫妻&アンジェロ、カプア=写真中=)
- 「野良犬として生まれ、動物保護団体に預けられた Beeno。面倒をみてくれる家族の元で9年間暮らした後、家庭の事情で同じ動物保護団体に戻されました。今は新しい家族が見つかり、愛情をいっぱいもらいながら暮らしています。」(Tファミリー&Beeno=写真下=)



※新しい飼い主を見つけた犬&飼い主に関する参考資料：人とイヌのライフスタイルマガジン「ONE BRAND」

メリアルについて

メリアルは多くの動物の健康と福祉および生産性の向上のために様々な製品を提供している、研究・開発主導型の動物用医薬品分野における世界のリーダー企業です。150カ国以上に販売網をもち、2008年の年間販売高は26億ドル(2,500億円)以上です。メリアルはサノフィアベンティス社を親会社とする世界企業です。

日本全薬工業株式会社(企業ブランド：ゼノアック[ZENOAQ])について

ゼノアックは動物用医薬品の開発・製造・輸入・販売までを一貫して行っています。GMP対応の生産体制、GLP対応の研究開発体制(専業メーカーで唯一の中央研究所と臨床研究牧場を保有)、そして業界で唯一、自社の販売拠点を全国41箇所に展開。国内そして世界の優良企業とも積極的な業務提携を推進し、強固なパートナーシップを結んでいます。